

ココイケ

制作：調和小学校PTA 会長 菊池 兼輔
発行：2018年4月

vol.3 ココイケの新しい生き物 2018年4月号

2016年に改修を終えた調和小学校の池「ココイケ」。

ココイケサポーターズ(裏面参照)が、清掃などの池の環境づくりをしています。ココイケの生き物やサポーターズの活動をご紹介します。

下の写真はヒレナガニシキゴイ。プラチナとゴールドのきれいな魚だよ。ココイケに見に来てね。



ヒレナガニシキゴイを知っていますか？



昨年12月に捕獲された時の写真。

ココイケで、長いヒレを優雅に動かして泳ぐ魚。それがヒレナガニシキゴイです。野川からココイケに来ました。

インドネシアのヒレの長いコイと、日本のニシキゴイを交配して誕生したコイの一種です。1977年、埼玉県水産試験場を視察に

訪れた天皇陛下(当時は皇太子)のご発言により、品種改良が進められました。現在は皇居東御苑二の丸庭園の池に放流されていて、埼玉県を中心に観賞魚としても日本各地に広まっています。

本来、ヒレナガニシキゴイは、鑑賞用に生み出された魚です。自然の環境は、時に辛いこともあるでしょう。どのように野川に来たのかと想像が膨らみます。



大きさから3歳くらいようです。



2017年6月撮影の野川。調和小付近では水がなく、歩き回ることが出来ました。

おさかなレスキュー

2017年6～9月、野川が枯れ果てました。川底にはたくさんのエビや魚の死体が。そこで、消えゆく水たまりの生き物を捕まえて、水の残っている深みへの移動、各個人の自宅に避難させるなどのレスキューを連日行いました。ココイケも一時避難場所として大変重宝されました。80cm級のコイや大型のナマズ、メダカやモツゴ等の小型魚以外にもスッポンやミシシッピーアカミミガメも無数にレスキューされました。ココイケ世話人の野川博士が、本活動を東京都からの依頼で野川流域連絡会の場で登壇、報告し、ココイケサポーターズの活動は大絶賛されました。



2017年9月23日(土)、二回目のマスのつかみ取りを行いました。子供たちが、ココイケに放たれたニジマスを手で捕まえ、自分でカッターを使ってさばき、七輪で焼いて食べるイベントです。子供たちに「命をいただくこと」を知ってほしいと考えての企画です。

2年続けての方も多く、チケットは完売。今年も同様のイベントを行う予定です。ぜひご参加ください。

マスつかみ取りアンケート結果

アンケートにご協力いただいた31名全員から、「楽しかった」「また同様のイベントがあれば参加したい」と回答がありました。

参加者の感想(一部)

- ・命を頂いていることが子供にも伝わったのではないかと思います。
- ・マスがヌルヌルしていてつかみづらかった。楽しかった。おいしかった。
- ・つかみ取りから、さばく、やく、食べるまでの工程が全て体験できたのが良かったです。七厘の数がもう少しあると、尚よかったです。
- ・たのしかったので、また来たいと思います。
- ・塩かげんがわからなかった。こわくてさばけなかった。
- ・もっとたくさんとれたらよかった。



ココイケに入って手でマスを捕まえます。



大人と一緒にカッターでさばき、串を刺します。



七輪で焼いて、いただきます!!

ココイケサポーターズ募集

ココイケサポーターズは月に一度、ココイケ清掃や野川のゴミ拾い、生き物採集を行っています。学校内のちょっとした修繕も行うことも？！

専門的な知識も特殊な道具も不要、お子様との参加も可能です！

子供たちの学校にぜひお力をお貸しください。

またサポーターズは下記のちょっと変わった自然・生き物系のイベントにも参加できます。

毎月の活動日程は、LINEで連絡します。毎回参加できなくてもOK。ご都合の良い時にご参加ください。

男女問わず、未就園児から中学生まで幅広い年齢の子供達と一緒に活動しています。

ご興味のある方は、世話人磯邊(野川博士)までメールにてお問い合わせください。

サポーターズが 参加できる自然・生き物系のイベント



田植え・稲刈り

横浜子どもと自然ネットワークのイベントに参加できます。新潟県十日町市で無農薬・天日干しの最高のお米を作りませんか？



三沢川ガサガサ探検隊

川崎漁協主催のイベントです。投網を見て、自分達でガサガサをします。捕れたアユやオイカワ、ブラックバス等は天ぷらにさせていただきます。

川底はコンクリートで水位も低く、小さな子も楽しめました。沢山の魚が取れ、ココイケでさばいて、いただきました。ブラックバスは臭みはなく、上品な白身でおいしかったです。



鵜沼海岸地引網

毎年9月の地引網では沢山のアジ、サバ、シラス、スズキ等がかかります。皆で捌いて、海鮮丼に。他にもエイサメ、フグなども採れます。



おさかなポストの忘年会

TVでおなじみ、山崎充哲さん(ココイケアドバイザー)率いるおさかなポストの忘年会。多摩川のアユの天ぷらをつまみに、楽しい時間を。

おさかなポストの方々が集まるアットホームな忘年会でした。水槽が並び、多摩川の生き物を見ることが出来ます。子供達には餅つきやけん玉、コマも。お腹一杯食べました。



お申し込み方法

タイトルを「ココイケサポーターズ加入申込」として、本文に保護者氏名、お子様の氏名/学年/クラス、メールアドレス、電話番号、LINE IDを記載して、両方のアドレスにメールを送信してください。

kinema-kai@docomo.ne.jp

takasui@xd5.so-net.ne.jp

※ アドレス変わりました

※ 二日経っても返信がない場合はお電話ください。(磯邊 090-8003-1395)

Youは何にこの川へ?

ヒレナガニシキゴイなどの生き物と同じく、川のゴミがどこから来るのか、不思議に思ったことはありませんか？ 代表的な川のゴミに話を聞いてみましょう。



インタビューアー

	<p>川ゴミの主役!! プラスチック類(飲料容器、レジ袋など)</p> <p>「こんにちは。川になぜいらっしゃったのですか？」</p> <p>「ふたのないゴミ箱にいたからだと思います。そこから風に飛ばされて…、気が付いたら川にいました。」</p>	<p>野川博士によると、強風のプラゴミの日の翌朝は、野川のプラゴミが急に増えるそうです。プラスチックは飛びやすく、最終的にたどり着くのは張り付きやすい水辺です。</p>
	<p>身体にも環境にも影響があります タバコ</p> <p>「やはり川に直接投げ入れられたのですか？」</p> <p>「違いますよ！吸い終わったら道端に捨てられました。側溝から下水へ、そして川にきました。」</p>	<p>調布市で使用されている合流式下水道は、豪雨の際にはオーバーフローして、汚水が川に流れ込んでしまいます。側溝に入ったゴミも、川に向かいます。</p>
	<p>水に溶けないものはそのまま川へ… その他生活用品</p> <p>「どうして川に？」</p> <p>「トイレで流されて来ました。水にとけない私の仲間は、川で集合することになっています。」</p>	<p>上記のように合流式下水道の調布市では、豪雨で汚水が川に流れ込みます。公共施設付近では特にゴミが多く、家以外の場所でのマナーの悪さが感じられます。</p>
	<p>これはもうわざとですよ?! 粗大ゴミ</p> <p>「大きいですねえ。どうやって川まで来たのですか？」</p> <p>「元の持ち主の名誉のため、答えられません…。」</p>	<p>粗大ゴミを川に捨てることは、不法投棄にあたります。決してしてはいけません。</p>

川にゴミを直接投げ込まなくても、ゴミの原因を作っていることもあります。川のゴミの原因は、日常の何気ない行動なのかもしれません。

ぼくたち、自分の意思で川に来たのではありません。

